

広島市こども文化科学館
リニューアル基本計画

令和6年8月

広島市

はじめに

こども文化科学館は、1980年(昭和55年)5月に、「おどろき・夢・ロマン」をテーマとして、日本初のこどものための博物館として誕生した施設であり、開館以来、「みる、ふれる、ためす、つくる、たしかめる」という体験的な手法を通して、科学や文化に関する興味・関心を高め、創造する心を育てることを基本方針として、参加体験型の常設展示のほか、プラネタリウムや、こども劇場、音楽会、科学教室・創作教室など、こどもたちを中心として楽しみながら学べる多彩な事業を展開してきました。

開館から40年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいることに加え、耐震化も未実施であること、また、常設展示の展示内容については、20年以上大規模な更新がされていないことから、施設の耐震及び長寿命化の改修と合わせて展示内容のリニューアルを行うこととし、市民アンケートやこども文化科学館のスタッフ、有識者等からの意見聴取などを踏まえ、2023年(令和5年)5月に展示リニューアルの方向性等を内容とする「広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想」を策定しました。

この基本構想を踏まえ検討を行っている新たな展示内容とともに、建物内のゾーニング(併設することも図書館や一部機能移転を予定している青少年センターを含む。)などについて、2024年(令和6年)2月に市民の皆様からの御意見等をいただくためのパネル展示及びアンケート調査を行い、このたび、各展示ホールの展開や新しい展示内容のイメージなどを内容とする「広島市こども文化科学館リニューアル基本計画」を策定しました。

今後は、この基本計画に基づき、建物内の具体的な配置計画(ゾーニング)等を定めた基本設計・実施設計に着手します。

〈目次〉

第1章 広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想(概要)	
(1) 現状と課題	1
① 現状	1
② 課題	2
(2) 展示リニューアルの方向性	3
① 基本的な考え方	3
② 4つの視点	3
(3) 事業活動の展開	4
① 常設展示等	4
② ソフト事業	5
第2章 広島市こども文化科学館リニューアル基本計画	
(1) 常設展示等	6
① 常設展示	6
② プラネタリウム事業	10
③ その他展示等	11
(2) ソフト事業	13
① 企画展示	13
② 教育普及事業	13
(3) 企業等との連携	16
① ソフト面での連携	16
② ハード面での連携	16
(4) 案内サインの工夫等	17
① 現施設における主な課題	17
② 案内サインの工夫等	17
第3章 リニューアルのスケジュール	18

第1章 広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想(概要)

(1) 現状と課題

① 現状

〈施設の概要〉

開設年月	昭和55年5月						
構造	鉄筋コンクリート造（地下1階、地上4階）						
延床面積	4,683.14 m ² （うち展示 1,037.97 m ² ）						
主要諸室	第1～4展示ホール、実習・創作室、プラネタリウムなど						
併設施設	広島市こども図書館 （鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 1,034 m ² ）						
開館時間	午前9時～午後5時						
入館料	無料						
プラネタリウム 観覧料	<table> <tr> <td>幼児、小・中学生</td> <td>無料</td> </tr> <tr> <td>高校生、65歳以上</td> <td>250円(200円)</td> </tr> <tr> <td>大人</td> <td>510円(410円)</td> </tr> </table> ※（ ）内は団体料金	幼児、小・中学生	無料	高校生、65歳以上	250円(200円)	大人	510円(410円)
幼児、小・中学生	無料						
高校生、65歳以上	250円(200円)						
大人	510円(410円)						
休館日	月曜日(休日を除く。)、休日の翌日、12月29日～1月3日						

〈展示内容及び教育普及事業の概要〉

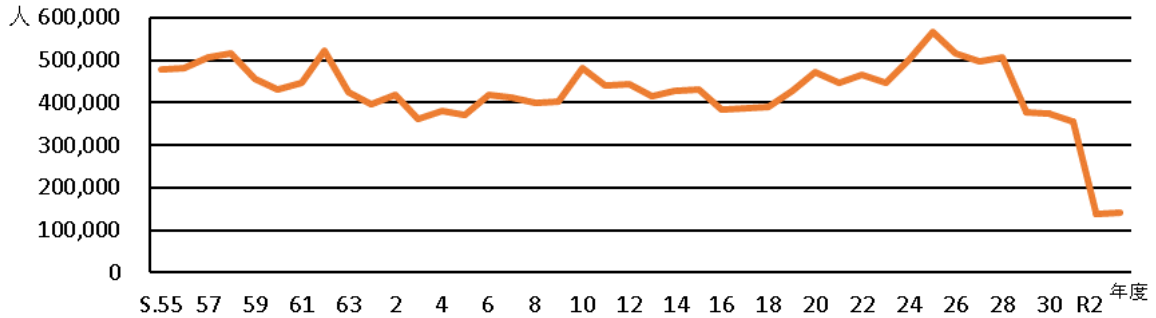
常設 展示	展示数	70点(光、電気、力などの物理を中心とした理工系の展示)
	展示更新の 主な経過	平成2年3月 第1展示ホール（34年経過） 平成6年7月 第2展示ホール（30年経過） ※経過年数は 平成10年3月 第3展示ホール（26年経過） 令和6年8月時点
プラネタリウム 事業		季節の天文現象や宇宙科学の最新情報、広島オリジナルの自作番組を中心に投影を行うほか、音楽コンサートや全天周映画の上映なども実施
教育普及事業		教室事業(科学教室、創作教室など)、サイエンスショー、大人の科学談話室、ホール事業、天体観望会、クラブ活動(プラネタリウムクラブなど)

② 課題

ア 入館者数が減少している。

年間入館者数は平成25年度の約57万人をピークに減少傾向にあります。

〈年間入館者数の推移〉



イ 施設が老朽化し、耐震性能も不足している。

- ・ 施設の老朽化が進み、壁やタイルのひび割れも多く、また、配管設備の劣化による水漏れや、空調設備等の動作不良などにより修繕を繰り返しています。
- ・ 耐震診断により耐震性能が不足していることを確認し、耐震改修計画を策定していますが、耐震改修は未実施です。
- ・ プラネタリウムは、平成27年度から28年度にかけて投影機器等のリニューアルを行ったものの、ドームスクリーンは開館以来更新されておらず、スクリーンのくすみやしわ等が生じており、リニューアルによる効果が十分発揮できていません。

ウ 展示コンテンツの魅力が低下している。

- ・ 常設展示の展示内容は、20年以上大規模な更新がされておらず陳腐化しており、最先端の科学技術に関する展示も少なく、展示コンテンツの魅力が低下しています。また、経年劣化による不具合が度々生じています。
- ・ 展示の更新が不定期で部分的に行われたため、各エリアの展示テーマや館全体の展示ストーリーが伝わりにくくなっています。

エ 地元企業や大学等と連携した事業展開が少ない。

広島には自動車産業などのものづくり企業が集積し、理工系の学部を持つ大学もある中で、企業や大学等と連携した事業展開が少なく、広島の持つ科学技術に関する特長が十分に生かされていません。

オ スタッフが関わる展示が少ないため展示のねらいが伝わりにくい。

スタッフが来館者に対して、ミニサイエンスショー等を通じて解説を行うことができるような展示が少なく、来館者から展示のねらいが分かりにくいなどの意見が一定数あります。

(2) 展示リニューアルの方向性

こども文化科学館は、開館以来、こどもが科学に関する学びを楽しんで行うことができるよう、体験的な手法を基本的な展示方針としており、リニューアル後においても、引き続き、こうした方針を継承しつつ、次の基本的な考え方と4つの視点に基づき、より魅力ある事業活動を展開していきます。

① 基本的な考え方

ア 科学の原理・原則から最先端技術まで体感できる展示の充実

身近な事物・現象に関する展示を基本とし、最先端の科学技術にも触れられるよう展示の充実を図ります。これにより、科学の原理・原則を体感しながら学ぶ機会を提供します。

イ 参加体験型展示の更なる充実

参加体験型のアナログ的な展示(機械的な装置)を中心とし、「みる、ふれる、ためす、つくる、たしかめる」ための展示の更なる充実を図ります。これにより、こどもたちが何度も訪れ、科学技術への興味・関心を深め、楽しみながら探究する学びを支援します。

② 4つの視点

ア 広島の魅力発信(地元企業等との連携強化)

他都市の科学館にはない、広島ならではの魅力発信を目指すため、地元企業や大学等との連携を強化します。

イ 幅広い世代が科学を楽しみ、学べる展示展開

こどもから大人まで幅広い世代が科学を楽しみ、持続的な学びを可能とする展示展開を目指すため、最先端の科学技術の紹介や、家族など複数人が一緒に参加体験できる展示手法の導入などを図ります。

ウ より深い学びのための交流機会等の充実

科学的な見方や考え方など、より深い学びにつながるよう、利用者との交流機会等の充実を目指すため、展示装置のみで完結するのではなく、専門家であるスタッフやボランティアなど人が介在した展示解説などを充実させます。

エ 社会的な課題に対する学びの充実

「こどものためのミュージアム」として、こどもたちに地球温暖化やエネルギー問題など社会的な課題に対する学びの充実を目指すため、科学と社会や生活との関わりを実感できる展示展開を図ります。

(3) 事業活動の展開

① 常設展示等

ア 常設展示

(ア) 取り扱う分野等

科学の原理・原則から最先端の科学技術に触れることのできる展示展開を念頭に、これまでの物理(光、電気、力、音、熱、運動など)や工学(ものづくり)など理工系の分野を中心としつつ、天文の分野も内容の充実を図っていきます。また、他の博物館等と連携した取組を行うことによって、こどもたちの学びの広がりにつなげていきます。

(イ) 展示展開の考え方

次の3段階の参加体験ができる展示を通じて、主体的な探究活動を促します。

a 「驚きと不思議」体感・驚きから、「なぜ？」を考える

遊びや展示体験を通じて、楽しみながら直感的に科学に触れ、「なぜこうなるんだろう」と驚き、不思議を感じ、考えるきっかけをつくり、科学への知的好奇心や知的探究心を刺激します。



b 「発見と学び」繰り返しやってみて、自ら気づく

何度も繰り返し試してみ、自ら法則性や仕組みに気づくことで、科学の確かな理解につなげるとともに、疑問を見つけ、結果を予想し、実際に自分の考えを試してみるという科学的な見方や考え方を育成します。



c 「創造とチャレンジ」アイデアを深める・未来につながる

専門のスタッフやボランティア等との対話や交流なども図りながら、展示体験から得られた気づきや考えをより深められるよう導くとともに、最先端の科学技術を体感するなど、未来を担うこどもたちの創造力やチャレンジする心を育てます。

イ プラネタリウム事業

通常为天体プログラムや星座解説に加えて、ドーム空間を活用した広島クリエイターとの連携により制作した大人向けプログラムの上映などを通じて、幅広い利用者に対し、天文に触れるきっかけを提供していきます。

また、老朽化したドームスクリーンは、展示リニューアルに併せて更新を検討します。

② ソフト事業

ア 企画展示

地元企業や大学、他都市の科学館などとも積極的に連携・協力をを行い、科学技術に関する最新の研究成果やスポーツ科学など、多彩なテーマで企画展を開催し、幅広い世代の来館者やリピーターの増加につなげていきます。

イ 教育普及事業

主に次の4つのポイントに重点を置き事業を展開していきます。

(ア) ここでしかできない体験の展開

幅広い世代が科学に関する興味・関心を高め、深掘りできるよう、科学教室やサイエンスショーなどソフト事業の充実を図り、家庭や学校ではできない本物の科学体験を提供します。

- 〈例〉・スタッフが来館者の目の前で実験を実演するテーブルサイエンス方式の科学実験やフリー工作の場の提供
- ・地元企業や大学等と連携した講座の開催、地元企業や大学等による出前授業の実施や研究成果の発表 など

(イ) 館外まで広がる活動の展開

科学館の外にいる人も利用者として捉え、地元企業や大学、文化施設等と連携した情報発信や、中央公園の自然環境を活用した事業展開、さらには今後、再整備が予定されるファミリープールエリアとの連携強化など、館外まで広がる活動を積極的に行います。

- 〈例〉・中央公園の水辺空間等を活用した自然探索、大型作品を制作する野外での工作教室の実施
- ・ファミリープールエリアとの共通イベントの開催 など

(ウ) 学校教育と連携した活動の展開

小学校学習指導要領解説理科編には、博物館やプラネタリウムなどを積極的に活用することが明記されており、科学館の有する学習効果が期待されることから、学校教育と連携し、理科教育への支援を行うとともに学校団体の利用促進にもつなげます。

- 〈例〉・学校向けの展示解説ガイドツアー、サイエンスショーの実施
- ・展示ワークシート(学習支援を目的とした問題プリント)、ガイドブックの作成 など

(I) こども図書館と連携した活動の展開

こども文化科学館にはこども図書館が併設されており、科学館で体験し疑問に感じたことなどを自ら図書館で調べることができ、その一連の過程により高い学習効果が期待できます。こうした併設による強みを生かし、こども図書館と連携した活動を展開します。

- 〈例〉・企画展示に合わせたこども図書館での関連図書コーナーの設置
- ・科学絵本の読み聞かせとその絵本に関連する実験など、こども図書館との連携によるイベントの共同開催 など

第2章 広島市こども文化科学館リニューアル基本計画

(1) 常設展示等

① 常設展示

ア 基本的な考え方

こども文化科学館は、開館以来、こどもが、楽しみながら直接体験を繰り返し、科学の興味・関心を高め、学びにつながるような展示展開を目指しています。このため、基本構想における3段階の展示展開の考え方(「驚きと不思議」、「発見と学び」、「創造とチャレンジ」)を踏まえつつ、来館者の興味の深度に合わせた、3つの“楽しい!”を感じられる展示体験を提供し、「もっと探究したくなる科学館」を目指していきます。

◎ びっくりして楽しい!

気軽にできる遊びや展示体験を通じて、科学の不思議に「ドキドキ」「ワクワク」する楽しさを提供し、科学の楽しさに気づききっかけをつくります。

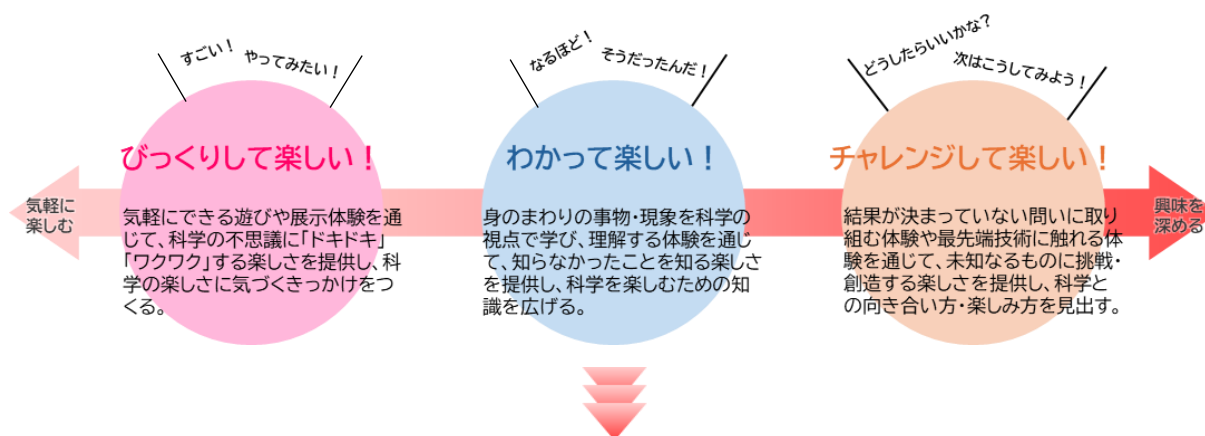
◎ わかって楽しい!

身のまわりの事物・現象を科学の視点で学び、理解する体験を通じて、知らなかったことを知る楽しさを提供し、科学を楽しむための知識を広げます。

◎ チャレンジして楽しい!

結果が決まっていない問いに取り組む体験や最先端技術に触れる体験を通じて、未知なるものに挑戦・創造する楽しさを提供し、科学との向き合い方・楽しみ方を見出します。

〈3つの展示体験(概念図)〉



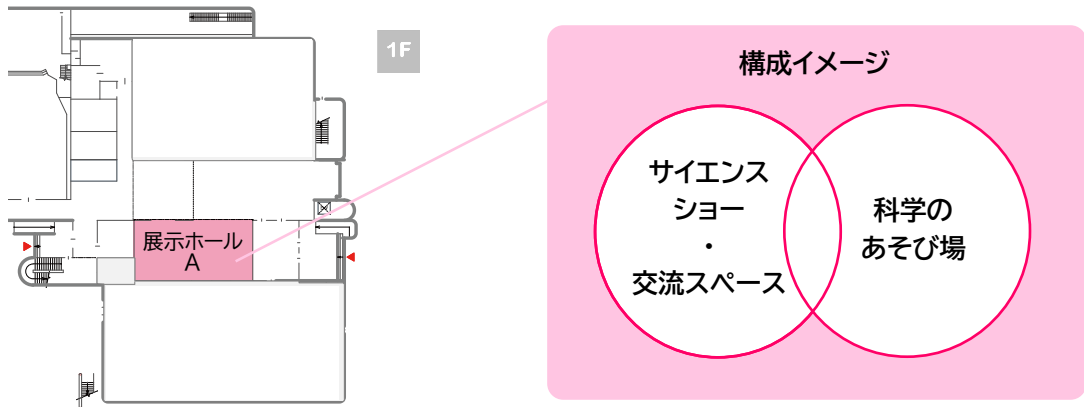
もっと探究したくなる科学館 へ

「楽しい!」からついついやってみたいくなる、「おもしろい!」から学び続けられる。科学をおもしろがる気持ち(科学への興味・関心)が探究心を刺激し、促進する。

イ 展示ホールの構成

展示ホールは、「びっくりして楽しい！」「わかって楽しい！」「チャレンジして楽しい！」という3つの「楽しい！」を感じられる展示体験を提供するため、以下の3つのテーマで展示ホールを構成します。なお、各展示ホールのレイアウト(別冊参照)は現段階でのイメージであり、今後実施する基本設計・実施設計において詳細を検討します。

(ア) 展示ホール A 〈テーマ:ふしぎを感じよう!〉



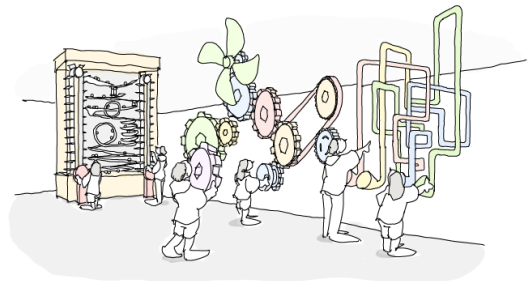
a 概要

サイエンスショーや、科学の特性を生かした遊び体験を通して、驚き、楽しみながら科学の不思議を体感できるエリアとします。

b エリア構成

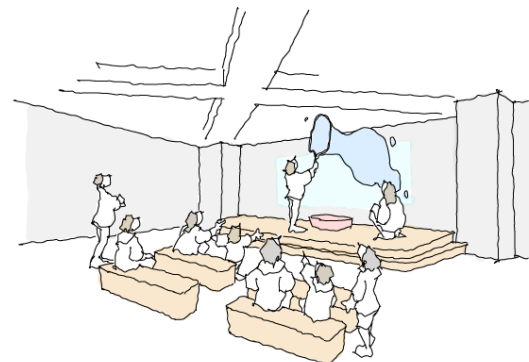
・ 科学のあそび場

特徴的な科学現象をモチーフとした、遊びながら科学の不思議さを体感できる展示アイテムを集めた空間とします。

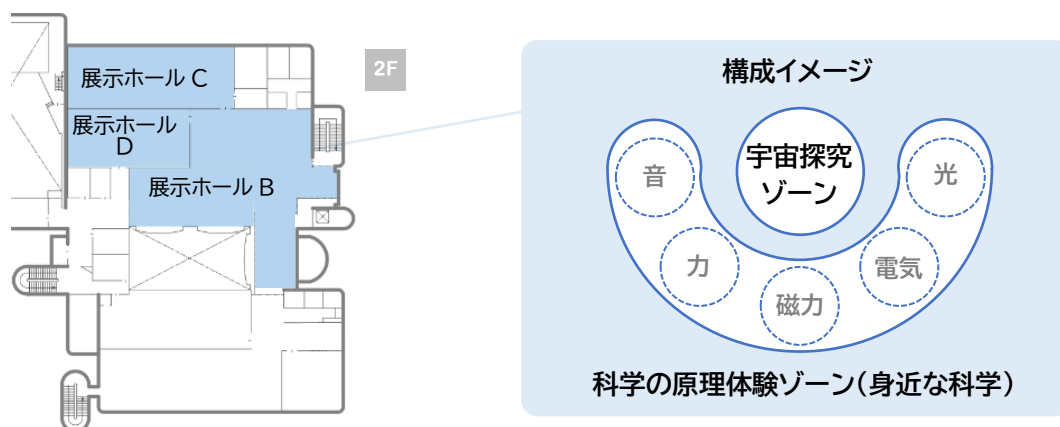


・ サイエンスショー・交流スペース

サイエンスショーのステージを中心とした空間とします。科学に親しむための入口として、防音等により周囲の環境に配慮しつつ、こどもから大人まで楽しめるサイエンスショーのほか、科学館スタッフと交流しながら、科学の楽しみ方を見つける気軽な実験(テーブルサイエンス)やフリー工作(簡単なものづくり体験)などを実施します。



(1) 展示ホール B・C・D 〈テーマ:学んで知ろう!〉



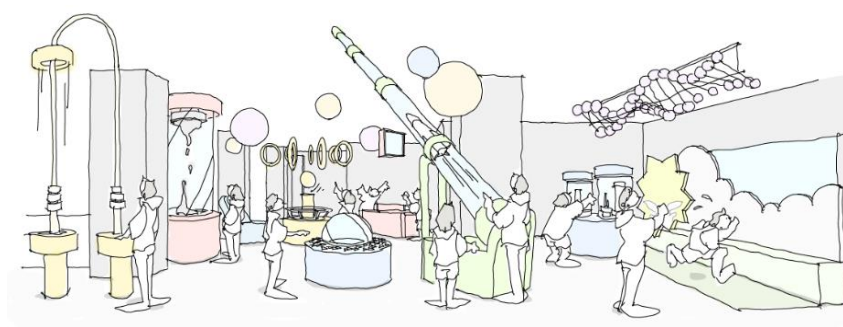
a 概要

光、電気、磁力、力、音など身近な現象や事物に触れ、科学の原理・原則を学ぶ「科学の原理体験ゾーン(身近な科学)」と、美しく、不思議いっぱいの宇宙の魅力に触れその謎に迫る「宇宙探究ゾーン」で構成するエリアとします。

b エリア構成

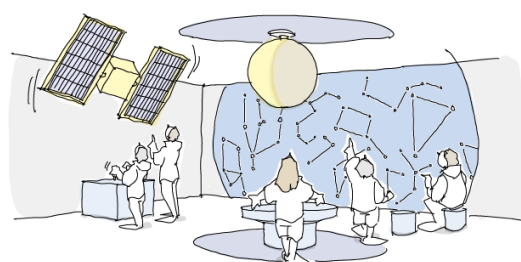
・ 科学の原理体験ゾーン(身近な科学)

光、電気、磁力、力、音といった科学の原理・原則について、身近な現象に紐づけて体験的な手法で学ぶことができる展示を中心に構成します。何度も繰り返し試行することで、科学の法則を体感的に理解するとともに、物事を科学の見方・考え方で捉えるための知識を身につけてもらうことをねらいとします。

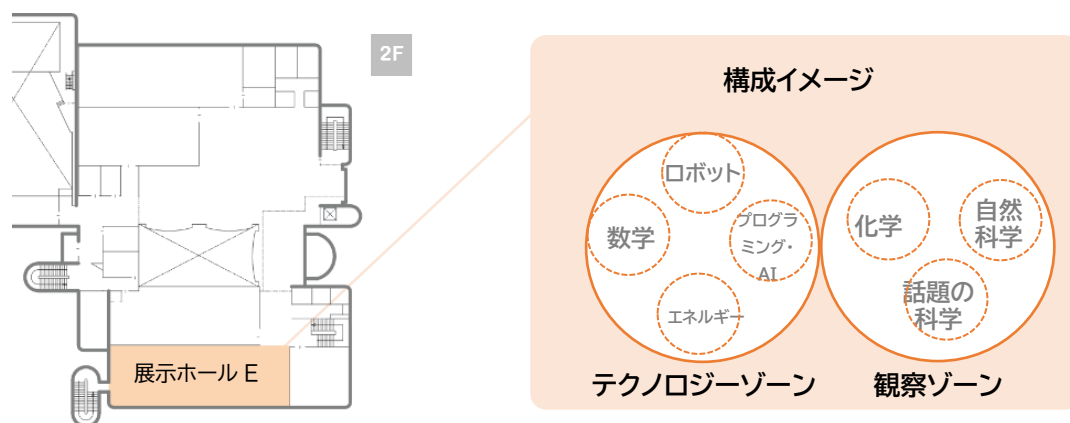


・ 宇宙探究ゾーン

太陽や月などの身近な天体から、ロケットや人工衛星などの宇宙開発まで、宇宙に関する情報について、映像装置や模型などを活用しながらわかりやすく紹介するなど、大規模なスケールで未知の世界への好奇心を刺激します。



(ウ) 展示ホール E 〈テーマ:考えてやってみよう!〉



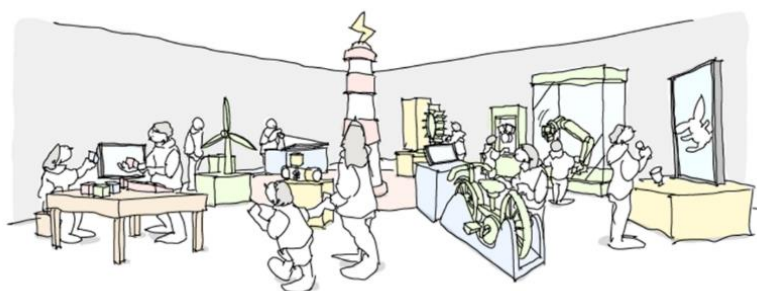
a 概要

最先端の科学技術やものづくり技術に触れることができる展示など、科学の応用を考えてみる「テクノロジーゾーン」と、研究の基本である「観察」を体験する「観察ゾーン」で構成するエリアとします。

b エリア構成

・ テクノロジーゾーン

ロボットや AI(人工知能)などの最先端の科学技術と、これらを支える数学的な考え方について、来館者の創意工夫によって結果が変わる展示アイテムで体感的に学ぶことができます。また、様々な発電技術などを紹介するとともに、エネルギー問題等についても触れ、社会的な課題にチャレンジする心を育てます。



・ 観察ゾーン

研究の基本である「観察」を体験する空間です。昆虫や植物、広島県内各地の岩石・化石、人工物など、身近なモノの実物標本について、顕微鏡やマイクروسコープといった様々な機器等で観察することができます。また、物質を構成する原子・分子を紹介し、ミクロの視点で世界を見るきっかけをつくります。



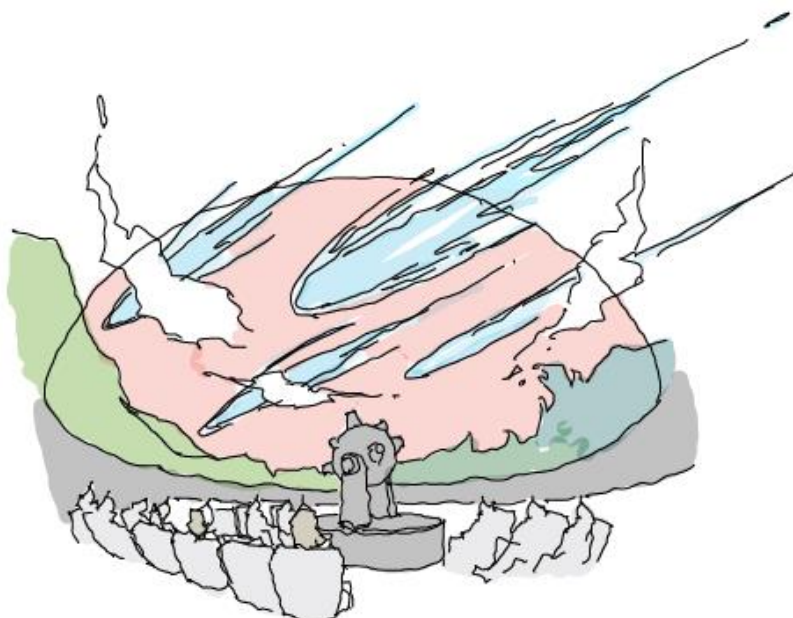
② プラネタリウム事業

「美しく・安らげる空間」、「ワクワクドキドキする空間」、「宇宙の不思議を探求する空間」など、プラネタリウムの持つ特殊性・魅力を最大限発揮できるように、学習投影だけでなく、スタッフによる解説やオリジナルコンテンツの投影、星空コンサートなど、プラネタリウム空間を活用したイベントを展開します。

また、開館以来、更新していないドームスクリーンについては、くすみやしわ等のない完全球面形状の新たなスクリーンを設置し、より鮮明な映像体験を提供します。

〈例〉

- ・ドームスクリーンを活用したクリエイティブな映像作品の上映会
- ・ドーム映像や星空を生かしたライブパフォーマンス
- ・美しいドーム映像や星空の下での睡眠を体験する星空瞑想イベント



ドームスクリーンでの映像作品の上映

③ その他展示等

展示ホールだけでなく、屋外の壁面や通路、トイレ等の共用スペースにおいてもミニ展示やグラフィックで科学要素を散りばめることで、館全体が不思議と出会える空間とします。

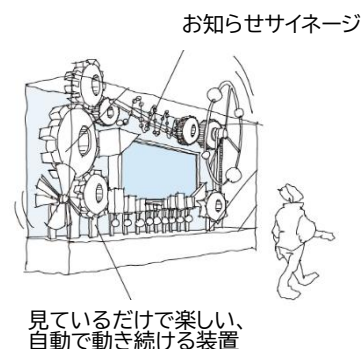
ア 空きスペースの活用(スポットサイエンス)

館内の空きスペースを活用して、手軽な科学体験を行うことができる展示を行います。スタッフの手作り装置を展示するなど、定期的に展示内容を入れ替えることで、新しい体験を提供します。



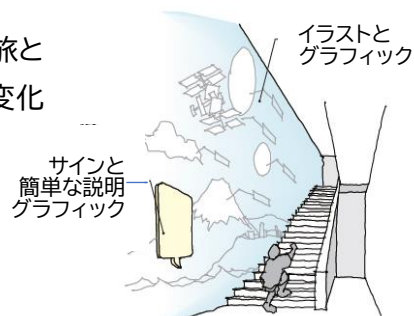
イ 屋外壁面(ショーケース)の活用(カガクカラクリサイネージ)

館内の展示をモチーフにした様々な装置が詰まった屋外ショーケースを設置します。中央にはサイネージがあり館内のイベントやお知らせを表示します。



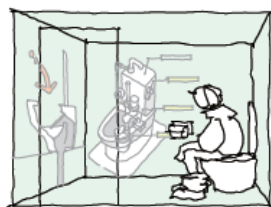
ウ 屋内壁面の活用(宇宙ハステップ)

1階から4階までの高さを、地上から宇宙空間までの旅と見立てて登る階段。登るにつれて壁面のグラフィックが変化し、高度にあわせて様々な情報を紹介します。

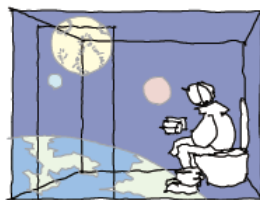


エ トイレの工夫

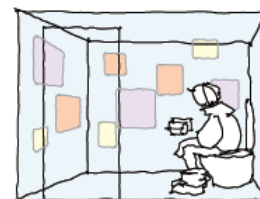
トイレにまつわる科学原理や技術、各フロアの展示に連動した「問いかけ」などをトイレの内装にグラフィックで展開します。身のまわりに潜む科学や技術に興味を持つきっかけとします。



トイレにまつわる科学原理の紹介



宇宙空間の再現



展示に関連する問いかけ

オ ミュージアムショップの活用

展示コンテンツで紹介した科学の原理・原則や、教室事業で実施した創作技術を自宅でも体験できる製作キットを販売し、科学への興味・関心を深めます。

カ 展示等の解説方法

現在の展示解説は、操作方法や文字による説明のみの展示解説サインが多く、展示の意図が十分に伝わらず、深い学びにつながりにくくなっています。

このため、展示解説サインのルールを定め、体験方法や科学の原理をわかりやすく説明するとともに、来館者が持ち帰ることができる「解説カード」を新たに作成するなど、来館者の年齢や知識に関係なく、誰でも展示内容を楽しめるようにします。

また、来館者の科学技術に関する興味・関心を高め、深い学びへとつなげていくため、専門スタッフやボランティアによる展示解説の充実を図ります。



現在の展示解説サイン

《「展示解説サイン」と「解説カード」について》

- ・「展示解説サイン」は、展示物の「名称」や、注目すべきポイントをヒントで表示する「問いかけ」、簡潔な文章とイラストで説明する「体験方法」など、以下のイメージで表示します。
- ・「解説カード」は、表面には、展示物の説明や原理・原則、技術の解説を掲載し、裏面には、関連する身の回りの現象や最新科学での応用などの情報を掲載します。また、定期的に内容を更新するなど、何度も来館したくなるような仕掛けとします。

展示解説サイン(例)	解説カード(例)
<p>【掲載内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・名称(展示物)・問いかけ(注目ポイントのヒント)・体験方法(簡潔な説明とイラスト) <p>【イメージ】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p style="text-align: center;">空気ロケット</p><p>ロケットを飛ばしている力はなんだろう？</p><p>〈操作方法〉</p><p>1. ○○○○ 2. ○○○○</p><div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div style="width: 40px; height: 20px; background-color: #ccc;"></div><div style="width: 40px; height: 20px; background-color: #ccc;"></div></div></div>	<p>【掲載内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・表面(展示物の説明、原理・原則など)・裏面(関連する身の回りの現象、最新科学での応用など) <p>【イメージ】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p style="text-align: center;">空気ロケット</p><p>表</p><p>〈原理〉</p><p>○○○○○○ <div style="width: 60px; height: 40px; background-color: #ccc;"></div></p><p>○○○○○○</p><p>○○○○○○</p><p>裏</p><p>〈どこで使われているの?〉</p><p>○○○○○○ <div style="width: 60px; height: 40px; background-color: #ccc;"></div></p><p>○○○○○○</p><p>○○○○○○</p><p>○○○○○○</p></div>

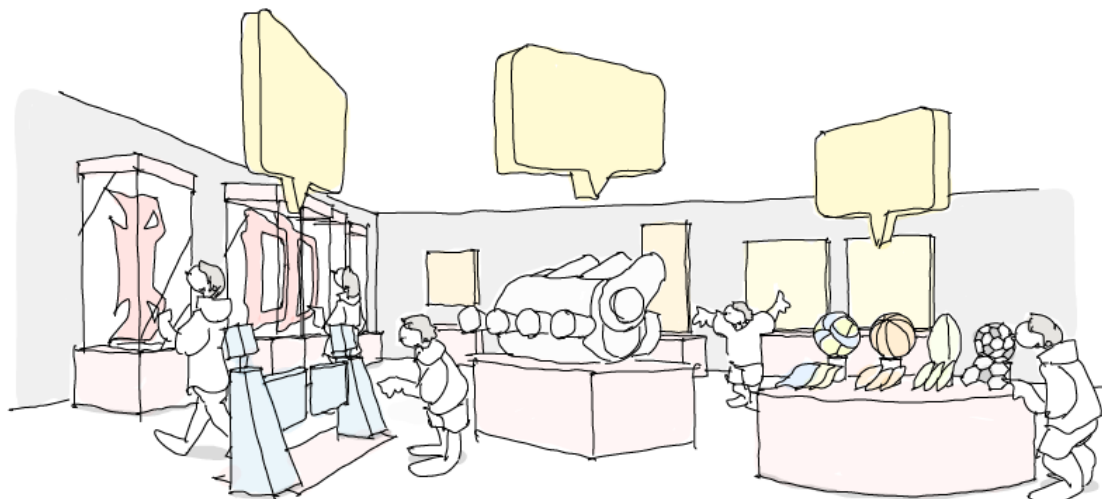
(2) ソフト事業

① 企画展示

科学技術に関する最新の研究成果やスポーツ科学、広島発のテクノロジーやノーベル賞、地球温暖化やエネルギー問題といった社会的課題など、科学と身の回りの生活とのつながりや社会との関わりを実感することができる幅広いテーマを題材とした期間限定の展示を行います。

〈例〉

- ・広島のテクノロジーに潜む魅力や不思議を見つける「広島のテクノロジー展」
- ・夏休みの自由研究のヒントとなる「自由研究アイデア展」
- ・生きものの形態や構造をものづくりに生かすバイオメティクスの企画展
- ・企画展示に合わせたこども図書館での関連図書コーナーの設置
- ・身の回りの科学を体感し、社会問題への関心につながるような企画展



広島のテクノロジー展

② 教育普及事業

ア 出会う事業(来館者とスタッフとのコミュニケーションを重視)

来館者とスタッフのコミュニケーションを重視した科学実験などを館内のサイエンスショー・交流スペースや、中央公園の「こどもゾーン」など館外で実施します。

〈例〉

- ・低年齢層から大人まで楽しめるライブ感あふれるサイエンスショー
- ・科学を気軽に学びたい層を対象とした参加型のテーブルサイエンス方式の科学実験
- ・全年齢層を対象とした気軽に作れる内容のフリー参加型工作教室



テーブルサイエンス

- ・科学絵本の読み聞かせとその絵本に関連する実験など、こども図書館との連携によるイベント
- ・屋上を活用した天体観望会など、宇宙を身近に感じるイベント
- ・再整備が予定されるファミリープールエリアでの連携事業

イ 深める事業(幅広い世代を対象とした様々な教室の開催、学習支援活動の充実)

実習等を行うスペースにおいて、こどもから大人までの幅広い世代を対象に、文化・科学・工学からものづくりまで、様々な内容の教室を開催します。

また、学校の授業に組み込むこともできるプログラムの開発・実施や教員を対象とした科学教育の指導力向上研修など、学校現場に必要とされる理科学習支援活動の充実に向けて取り組みます。

〈例〉

- ・年齢に応じた科学技術の探求を主眼とした教室
- ・年齢に応じた、ものづくり・プログラミング教室
- ・高校生以上を主な対象とした深掘りした内容の教室
- ・各学年の学習項目にあわせたワークシートの開発
- ・小学校・中学校の団体見学で活用できる展示解説書の作成
- ・学校の教員向けに、授業で使えるものや、こどもが興味を持ちやすい展示を中心に紹介する展示ガイドツアー
- ・科学の同じ分野に興味・関心のある仲間学びを深めるクラブ活動



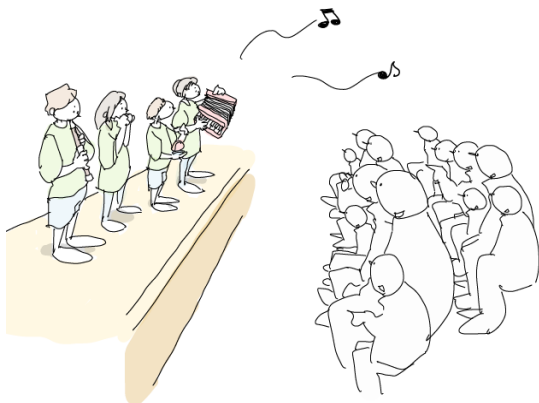
プログラミング教室

ウ ふれあう事業(ホールの多目的活用による様々な事業展開)

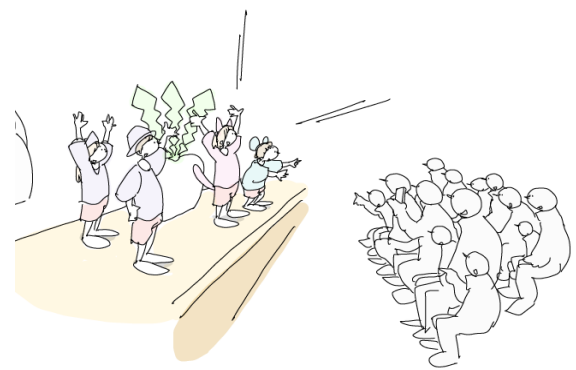
こども音楽会やこども演劇、各種講演会などの文化イベントや大規模なサイエンスショーを実施するとともに、こども図書館や青少年センターと連携して中高校生向けの音楽会や演劇、研究者や技術者、クリエイター等による幅広いテーマの講演会(トークセッションなど)を開催するなど、ホールを多目的に活用した様々な事業を展開します。

〈例〉

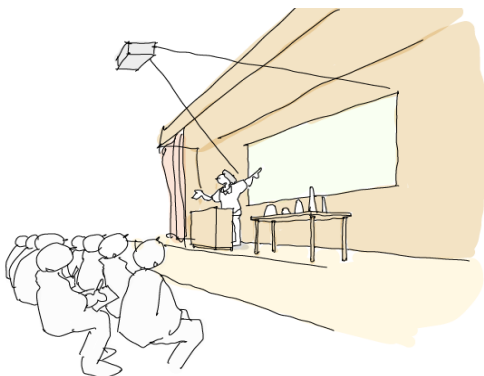
- ・未就学児とその保護者等と一緒に楽しめる音楽会や演劇
- ・話題の科学テーマに詳しい研究者や技術者によるトークイベント
- ・こども図書館と連携した講演会



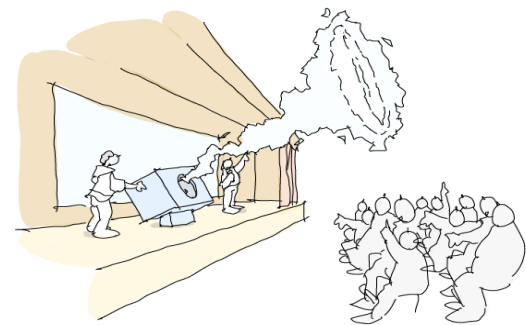
音楽会



演劇



講演会



大規模なサイエンスショー

(3) 企業等との連携

ものづくり産業を始めとする地元企業や大学等が有する多彩な最新技術等に触れることができる機会を提供することにより、広島ならではの魅力を発信するとともに、未来を担う子どもたちが、ものづくりに対する興味・あこがれを抱き、将来の職業等を考えるきっかけとします。

① ソフト面での連携

ア 「青少年のための科学の祭典(広島大会)」への出展(毎年10月頃)

企業等が有する科学技術と関連したテーマの実験や工作教室等を行うブースを出展します。

イ 教室やサイエンスショーなどの開催

企業等が有する科学技術と関連したテーマの実験や工作教室等を開催します。

ウ 工場等への見学ツアーの実施

ものづくり産業など、普段入ることができない工場を見学するツアーを実施します。

エ 企画展の開催

企業等との共同により企画展を開催します。



青少年のための科学の祭典
(広島大会)



四国電力との
サイエンスショー開発
(高知みらい科学館)



セメント工場見学
(福岡市科学館)



企画展の協賛・展示開発
(福岡市科学館)

② ハード面での連携

ア 展示物の共同製作

企業等との共同により展示物を製作します。

イ 館内整備・展示への協力

企業等から製品等を提供いただき、館内整備で活用します。また、企業等の事業内容や科学技術に関する展示を行います。



企業による展示物製作の協力
(神戸市青少年科学館)



衛生設備の提供
(北九州市科学館)



企業展示ブースの出展
(福岡市科学館)

(4) 案内サインの工夫等

① 現施設における主な課題

ア 館全体の総合案内がない。

現施設では、こども文化科学館とこども図書館それぞれに案内板が作成されているものの、館全体の総合案内がありません。



イ サインの多言語化が不十分である。

英語表記をしているサインと表記していないサインが混在するなど、多言語化が不十分となっています。



② 案内サインの工夫等

ア こども文化科学館、こども図書館、青少年センター3施設それぞれの利用者にとってわかりやすい案内サインの工夫

- ・3施設の複合化に伴い、利用者がスムーズに目的の施設に着くことができるよう、案内サインのルールを作成します。
- ・館全体の総合案内サインを新たに作成することで、利用者が目的以外の施設の情報に触れる機会をつくります。

イ 多言語対応のルールづくり

- ・室名などの主要な情報は多言語表示とするなど、多言語対応のルールを作成します。
- ・ピクトグラムやアイコンを積極的に使用し、外国人の利用者や未就学児にも伝わる工夫をします。

ウ デザイン等への配慮

- ・誰もが認識しやすいよう、コントラストや色の組み合わせに留意したデザインとします。
- ・遠くからでも判別が付きやすい書体を使用します。
- ・サインの機能に応じて視認距離を設定し、適切な大きさの文字を使用します。
- ・こどもの目線の高さなどに配慮してサインを設置します。

第3章 リニューアルのスケジュール

令和10年度のリニューアルオープンに向けて、順次、設計や展示物の製作、改修工事を行っていきます。また、令和8年度から令和10年度にかけて工事により施設を休館する予定です。なお、休館中は、学校や地域等での出前講座や出張展示、サイエンスショーの実施など、アウトリーチ型のプログラムに取り組むこととしています。

区分	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
展示リニューアル	基本・実施設計		展示製作・工事		
(参考) 耐震・長寿命化改修	基本・実施設計		改修工事		

リ
ニ
ュ
ー
ア
ル
オ
ー
プ
ン

登録番号	広 C3-2024-306
名称	広島市こども文化科学館リニューアル基本計画
編集・発行者	市民局文化スポーツ部文化振興課 広島市中区国泰寺町一丁目6番34号 (〒730-8586) TEL 082-504-2500
発行年月	令和6年(2024年)8月